

< 新規受託項目のお知らせ >

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。
このたび、新たに下記項目の検査受託を開始することになりました。
取り急ぎご案内させていただきますので、ご利用の程よろしくお願
い申し上げます。

敬具

記

《新規受託項目》

検査項目	IgE (RAST) (特異的シングルアレルゲン)	
	Gly m 4	Hev b 6.02
項目コード	2656	2657
検体量	血清 0.3mL	
容器・保存方法	容器番号1 (生化学用採血管) ・ 冷蔵	
検査方法	FEIA	
基準値 (単位)	0.34以下 (UA/mL)	0.35未満 (UA/mL)
所要日数	2~4日	3~5日
検査機関	京浜予防医学研究所	保健科学研究所
実施料 (判断料)	110点 (免疫) *	
備考	* 保険収載名称: 特異的IgE半定量・定量 特異的IgE1430点を限度として算定する。	

※検査ご依頼の際は、No.3アレルギー検査依頼書の指示事項欄に「Gly m4」
「Hev b6.02」とご記入ください。

※臨床的意義につきましては、裏面をご参照ください。

《実施日》

平成 28年2月1日 (月) 受付分より

《臨床的意義》

● Gly m4

「Gly m4」は、大豆由来のアレルゲンコンポーネントの一つであり、大豆のクラス2食物アレルギーの原因物質であることが報告されています。

大豆を原因とするアレルギーには、即時型食物アレルギーとクラス2食物アレルギー（感作アレルゲンと症状発現の原因アレルゲンが異なる病態）が知られています。クラス2食物アレルギーはハンノキやシラカンバ等のカバノキ科花粉に対してIgEを産生し、その後、大豆加工品（豆乳や水分を多く含む豆腐など）を摂取することで症状が誘発されます。

「Gly m4」は、「大豆」と比較して、大豆のクラス2食物アレルギーに対する臨床的感度が優れていることから、診断補助に有用であると考えられています。

しかし、「Gly m4」以外的大豆アレルゲンコンポーネントが原因と考えられるアレルギー症例も報告されているため、「Gly m4」に加えて「大豆」も一緒に測定されることをお勧めいたします。

● Hev b6.02

「Hev b6.02」は、ラテックスアレルゲンコンポーネントの一つであり、ラテックスアレルギーの主要アレルゲンとして知られています。臨床的特異度が「ラテックス」と比較して優れていることから診断補助に有用であると考えられます。しかし、臨床的感度は「ラテックス」の方が優れているため、

「Hev b6.02」と「ラテックス」を合わせて測定することで、より精度の高い診断が可能になることが期待されます。

● 参考文献

原田 晋, 他: 日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会雑誌1 (1): 31-38, 2007.

足立 厚子, 他: 日皮アレルギー, 14: 64-72, 2006.

A. Yagami, et al.: Allergology International 58 (3): 347-355, 2009.